

山連教第65次
教育研究集会報告書

東山

生きる力を育む評価のあり方

～児童の評価を授業に生かす取り組み～

6学年 総合的な学習「平和について考えよう」

22

評

山連教東山地区

勝沼小学校 原藤生府

研究の経過と概要

1 支部研究テーマ

「生きる力」を育む評価のあり方

2 報告書（レポート）ができるまでの具体的経過について

5 / 8 ・研究計画（役員，テーマなど，研究方法）

5 / 20 ・研究計画（テーマ確認，テーマ設定の理由，具体的研究計画）

6 / 3 ・ポートフォリオについての学習会

8 / 3 ・6学年総合的な学習「平和について考えよう」の授業案検討

8 / 28 ・6学年総合的な学習「平和について考えよう」研究授業

9 / 30 ・これまでの研究の中間まとめ

3 地区教研で論じられた問題と今後の課題について

・研究テーマをより充実させていくための評価のしかた，あり方について OPP やその他様々な方法も研究していく，しなやかで緩やかな研究を模索すること。

・子どもたちの変容を評価するのがこの部会の研究内容であるが，評価はその後にどのようにつなげるのが大切である。

・6年間の OPP 評価の研究で一つの区切りとし，また新しい評価法の研究をする方向もある。

4 共同研究者

津野 浩二（牧丘第一小学校教頭）

小林 光三（加納岩小学校教諭）

矢崎三枝子（八幡小学校教諭）

清水 利子（日下部小学校教諭）

中村 潤子（日下部小学校教諭）

高野恵美子（後屋敷小学校教諭）

三枝 一哉（日川小学校教諭）

古屋 岳治（玉宮小学校教諭）

小

椋 恵美（後屋敷小学校教諭）

市川 香織（後屋敷小学校教諭）

中根 淳（山梨小学校教諭）

原藤 生府（勝沼小学校教諭）

1 研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

2 はじめに（主題設定の理由・研究の経過）

変化の激しい実社会を主体的に力強く生きていく力を培うという観点から，近年子ども達に求められる力が『生きる力』（確かな学力，豊かな人間性，健康・体力）であり，新学習指導要領においても，「児童に生きる力をはぐくむことをめざし，創意工夫した特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実にも努めなければならない」と考えが示されている。そこで各学校における児童・生徒や地域の実態に応じた教育課程の編成・実施とそれに伴う指導法の工夫が必要になってくる。

また，「児童の良い点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに，指導の過程や成

果を評価し、指導の改善を行い、学習意欲の向上に生かすようにすること」と、評価についての考えが示されている。このことから、「生きる力」特に「確かな学力」の定着を考える時、わたしたち教師の指導を振り返り改善することと、適切な評価と支援により児童の学ぶ意欲を高めることは、きわめて重要な内容であると考えられる。

日常行っている評価を見直し、児童の学び・変容を丁寧に見取り、具体的・積極的な評価を行うことで次の学習活動への意欲を高め、確かな学力の定着をいっそう図っていきたいと考え、本テーマを設定した。

2009年度は、国語科において単元を通して1枚ポートフォリオを用い、読み取りの深まりや気持ちの変化を見取っていった。2010年度は、道徳の授業を通して研究を行い、学習前・学習後において、児童の道徳的価値の高まりや心の変化を見取ることができた。2011年度は、1枚ポートフォリオの作成・活用の仕方をさらに研究しながら、生活科や社会科の授業を通じて検証を行い、表現する力が伸びたり、理解が深まったりすることを見取ることができた。そして、2012年度は、更に教科を広げて算数科・理科で研究を進めた。ポートフォリオから児童の実態をつかみ、児童の学習意欲向上を目指して取り組んできたが、ポートフォリオを振り返ったり、児童相互に交流したりすることで、自己肯定感が高められ、学習意欲向上にも効果が出てくることが確認できた。そして、昨年度は1枚ポートフォリオ評価法に焦点を当てた5年目として、国語科と道徳で授業を行った。ポートフォリオを活用することで、子どもの学びの足跡を子ども自身が振り返ることができ、それが意欲の向上や自己の成長の実感につながった。また、子どもが最初と最後でどう変わったかの変容の見取りや、子どもの考え方やとらえ方の高まりをとらえて評価に生かすことなどができ、更に研究が深まった。一方、昨年度出された「評価する際の指標となる言葉」や「PDCAのサイクルにポートフォリオがどう関わっているか」については、もう少し研究していく必要があるのではないかとということも課題として出されている。

そこで、本年度はこれまでの研究の成果を生かしながら、これらの点についても研究を深めていき、よりよいポートフォリオでの評価を目指したい。

3 実践

6 学年総合的な学習における実践

授業者 勝沼小 原藤生府

1 題材名 「平和について考えよう」

2 題材について

戦後70年が過ぎ、戦争を実体験として知る方々の年齢も高くなり、私たち戦争を知らない世代は、その悲しくも貴重な記憶をできるだけ受け継ぎ、次代に伝えていく義務があるだろうと強く感じている。本校の総合的な学習では、1学期後半から2学期はじめにかけて、平和について考える領域が設定されている。この学習の機会をとらえて、ある意味平和の裏返しと言える戦争について、考えさせることにした。

学習を進めていく上で、大切にすることは、主に次の3点である。1点目は、上記のと

おり、戦争の記憶をできるだけ受け継がせること、2点目は、戦争を経験した方々との直接的な関わりを大切にしていけること、3点目は、身近なところにあった戦争を取り上げていくことである。全体の学習の見通しとして、まず身近なところから入り、知識を得た上で、次に、それぞれの課題を設定し、課題について調べ、まとめていき、最後に、発信するという、大きく3段階で進めていくことにした。

(1) 身近にあった戦争について知り、知識を得る段階

本学習の第1時では、まず、児童が戦争をどのようにとらえ、どのくらいの知識をもっているのかを知るために、「戦争とは何か」と問いかけ、記録に残させた。さらに、「この山梨にも戦争はあったのでしょうか」と問いかけた。この問いの答えを探すために、まず、各自の調べを行った。その結果、多くの児童は、甲府空襲の存在に気づき、それに関わる言葉や物、出来事等に興味をもっていった。さらに、身近にいる祖父母、或いは、曾祖母に戦時中や戦後の様子について聞き取りを行った。聞き取ってきた内容は、山梨に直接関係するものと、広く戦争というものをとらえたものなど様々であったが、身近にいるおじいさん、おばあさんから直接お聞きしたお話には重みがあり、聞き取った本人ばかりでなく、発表を聞いた学級の子どもたちにとっても、戦争を少しだけ身近に感じるようになる貴重な機会となった。

以後は、戦争体験記を読む活動、甲府空襲展拝観、学校の近所の方に来校していただき戦争体験談をお聞きする学習を行った。戦争体験記は、甲府空襲に関するものと集団疎開に関する資料を教師が集め、その中から児童に選択させて読ませ、内容と感想を記録に残させた。甲府空襲については、身近な戦争被害という意味で、集団疎開については、後にお聞きする戦争体験談の予備知識として知っておいた方がよいと思ったので取り上げた。この活動で、児童の戦争についての知識がまた少し増えた。甲府空襲展も、やはり、身近なところにあった戦争について、知識を得ること、できれば、自分なりの課題を見つけることを目的として拝観した。ここでは、実話をもとにして作られた映画、語り部の方による甲府空襲の体験談、展示品からたくさんの知識を得た。語り部の方が、お話中に言葉を詰まらせる場面があり、子どもたちは、語り部の方の言葉の奥にある思いも感じ取ることができたようであった。

甲府空襲展に続いて、今度は、ご近所の方に教室に来ていただき、戦争体験談をお話しいただく機会をもった。お話しくださった方は、学級のある児童の曾祖母さんの友だちの方で、学校のすぐ前にお住まいしている方である。話しの内容は、東京にいらっしゃった頃の空襲のこと、学童疎開で山梨に来たこと、学徒勤労動員で愛知県の半田市に赴き戦闘機を作る労働をしたこと、甲府空襲に遭ったときのこと、当時の学校の様子などであった。子どもたちは、真面目な態度でお話を聞き、たくさんのメモを取った。また、いくつかの質問もした。

(2) それぞれの課題を設定し、調べ、まとめていく段階

以上、(1)のような学習をとおして、初期の段階（おじいさんやおばあさんから聞き取り調査した後ぐらい迄）で児童が興味をもったのは、甲府空襲（七夕空襲）の様子、爆撃の怖さ、爆薬を持って戦車に体当たりした話、勝沼の被害、おじいさんの兄弟が戦死、

マラリア、食糧不足、ヘビやカエルを食べたこと、薬不足で目が見えなくなったこと、家族がはぐれたこと、軍事工場、2・26事件、朝鮮からの引き上げ、学徒勤労動員、英語使用禁止、などである。

甲府空襲展以降に興味をもったのは、女性の死亡者数が多いこと、金属供出、アメリカ軍の爆撃、B29、焼夷弾、防空壕、物資不足食べ物不足、避難訓練、学童疎開、学徒勤労動員、第一次世界大戦、甲府以外で焼夷弾を落とされた場所、戦争中の学校や子どもたちの様子、ほしがりません勝つまでは、聖戦、カンタナ灯、半数のお父さんは戦争に行かなかったこと、語り継いでいくこと、などであった。

戦争体験談をお聞きした後、興味をもったことは、彩雲（偵察機の名前）、学徒勤労動員、エアーハンマーで偵察機作り、日の丸のはちまき、自分たちと同じ位の年の時疎開、電車で弁当を盗まれるほど食糧不足、ひどい食事、干し芋だけでもご馳走それを10人で分けたこと、家族と離ればなれ友達にも会えないこと、戦争だけでなく大地震の被害、爆風で人が飛んだこと、つらい思い出を話してくれたこと、亡くなった人を自転車の荷台に載せて走っていた人のこと、兵隊の生活、などであった。

これらの分からない言葉や興味をもったことについて、各段階で学校の本やパソコンでできるだけの調べを行った。授業時間だけで、或いは、学校で得られる資料だけでは、調べられない事項もあったので、自分の家のパソコン等で調べたり、勝沼図書館などに行って調べたり、相談してみることや自分のおじいさんおばあさんなど、聞ける人に聞いて調べたりする方法もあると勧めた。

そんな中、夏休み目前になり、休み中の自由研究の宿題と関連させて、課題を絞って調べを進め、まとめていってはどうかと考え、児童に提案してみたところ、承諾を得られたので実行することにした。調べる課題は、①山梨で作っていた武器とその使い方、②山梨の兵士数と兵士の生活、③甲府49連隊は何をしていたか、④戦争中、山梨で起こった事件、⑤山梨の人は戦争からの復興のためにどんなことをしたか、⑥山梨で作っていた武器や飛行機があったか。あったとしたら、どんな機能があったか、⑦空襲に備えた一般人たちの暮らし、⑧当時（戦時中）使っていた道具、⑨戦争で使っていた道具、以上9点について、個人或いはグループで調べを行うようにした。

（3）調べまとめたことを発信していく段階

現段階では、未定であるが、各課題について調べたことを学級全体で共有した後、例えば、集会等の場を設定して、全校のみんなに伝える活動はできないかと考えている。

〈本研究部会の研究との関わり〉

本研究部会の研究と関わって取り組んだことは、次の2点である。

（1）学習の過程で児童が取り組んだワークシート、見たり聞いたり読んだりして調べたこと、思ったことを記録させ綴り残す。

（2）学習を始める前と学習終末に同じ問いかけをする。

取り組みの目的は、教師側として、児童がどのようなところに問題意識をもっているのかをつかみ、次の授業の方向や児童への支援のあり方を考えるときの手がかりとするためという目的と、児童の課題設定の様子、問題解決の有り様、自己の考え方や生き方の変容等、

目標に対する評価をする目的がある。

児童側としては、自分の学習がどのように進んでいるかを確認したり、ふり返って参照したり、自らの変容や成長を実感したりするためである。

3 児童の実態

男子13名、女子13名、全体に落ち着いて学習する子どもたちである。言われた課題は、集中してやるが、自分から課題を見つけて学習を進めていくことは、なかなかない。戦争については、土地や資源をめぐる国同士の争いというふうに理解していて、よくないこと、あってはならないこと、怖いこと、残酷なことなどの認識をもっている。全体的に見て、戦争をどこか遠くにあるものとしてとらえている感じが強い。戦後70年が経ち、児童自身は言うまでもなく、父母、或いは、祖父母までも戦争を直接知らない世代であることを考えれば、このようにとらえるのは仕方がないことである。しかし、こういう子どもたちだからこそ戦争の記憶を今受け継いでおく必要性を強く感じる。

4 目標

○戦争について自ら課題を見つけ、課題をよりよく解決する。

○戦争について学習することによって、平和の尊さに気付いたり、平和な世界を創造するためにはどうしたらよいかを考えたりして、さらに課題を広げ深める。

5 評価の方法

(1) 学習活動の過程で児童が調べたことや感想、ワークシートなどをひとまとめに綴ったものを作る。それをもとに、課題設定や問題解決がどのようになされているかを評価する。

(2) 学習活動の最初と最後に同じ問いかけをし、その変容の様子から、児童の知識や考え方、生き方に変化や深まりが見られるかを評価する。

(3) 授業中の児童の発言を記録し、課題を広げたり、深めたりしているかを評価する。

6 活動計画（全22時間）

時	目標	学習活動	評価規準
1 6/3	◎戦争とは何かについて自分の考えをもつ。	○戦争とは何かを考える。 「戦争とは何ですか?」「あなたは、戦争について、どのように思っていますか?」という問いについてワークシートに考えを書く。	・自分の考えが書けている。(ワークシート)
2 6/4	◎身近にあった戦争について、進んで調べる。	○身近にあった戦争について、パソコンや本で調べる。 「この山梨にも戦争はあったのでしょうか?」	・自分の課題について、調べたことや感想がしっかりとメモがしてある。(ノート)

3 6/10	◎身近にあった戦争について調べたことを交流して知識を広げる。	○前時に調べたこと、調べて思ったことを発表、交流する。	・友だちの発表をしっかりと聞いている。 (授業観察)
宿題 ~6/23		○おじいさんやおばあさんたちに戦争の犠牲について聞き取りをする。(ワークシート) 「勝沼の人が受けた戦争の犠牲について、おじいさんやおばあさんに聞いて調べよう」	
4 6/24	◎身近にあった戦争について調べたことを交流して知識を広げる。	○おじいさんやおばあさんたちに戦争の犠牲について聞いてきたことを発表、交流。 ○発表を聞いて、心に残ったことをノートに記述。	・友だちの発表をしっかりと聞いている。 (授業観察) ・発表を聞いて、心に残ったことをしっかりと記述してある。(ノート)
5 7/1	◎身近にあった戦争について、進んで調べる。	○戦争体験記を読み、内容と感想を記録に残す。	・戦争体験記の内容や感想がしっかりとメモがしてある。(ワークシート)
6 7/7	◎身近にあった戦争について、進んで調べ、知識を広げる。	○甲府空襲展拝観	・甲府空襲展で学んだことや感想がしっかりとメモがしてある。 (ワークシート)
7 7/8	◎身近にあった戦争について、進んで調べる。	○分からない言葉等について、本やパソコンで調べる。	・自分の課題について、調べたことや感想がしっかりとメモがしてある。 (ノート)
8 7/10	◎身近にあった戦争について、進んで学び、知識を広げる。	○小澤頼子様より、戦争体験談をお聞きする。	・戦争体験談をお聞きして学んだことや感想がしっかりとメモがしてある。 (ワークシート)
9~ 10 7/13 7/15	◎戦争について、さらに調べる課題を設定する。	○調べてみたいことを出し合い、自分が調べていくことを設定する。	・戦争についての自分の課題をもっている。 (授業観察)
夏休み (宿題)		○各課題について調べ、まとめ。	

1 1 8/28 本時	◎戦争についての自分の考えを深める。	○これまでに戦争について学んだ知識をもとに、戦争がいまだに変わらないわけについて考える。	・戦争についての考え方が深まっている。 (発言・ワークシート)
1 2～ 1 3	◎身近にあった戦争について調べたことを交流して知識を広げ、さらに自分の課題を設定する。	○夏休みに戦争について調べたことを発表交流する。	・友だちの発表をしっかりと聞いている。 (授業観察) ・発表を聞いて、心に残ったことをしっかりと記述してある。(ノート)
1 4～ 1 5	◎戦争について、さらに調べる課題を考え設定する。	○調べてみたいことを出し合い、自分が調べていくことを設定する。	・戦争についての自分の課題をもっている。 (授業観察)
1 6～ 1 9	◎身近にあった戦争について、進んで調べまとめる。	○課題についての調べとまとめをする。	・自分の課題について、調べたことや感想がしっかりとメモがしてある。 ・課題について調べたことを分かりやすくまとめしてある。
2 0～ 2 1	◎身近にあった戦争について調べたことを意欲的に聞いている。	○調べたことを発表交流する。	・友だちの発表をしっかりと聞いている。 (授業観察) ・発表を聞いて、心に残ったことをしっかりと記述してある。(ノート)
2 2	◎学習全体を振り返る。	○戦争とは何かということについて、考える。 「戦争とは何ですか?」「あなたは、戦争について、どのように思っていますか?」という問いについて再考し、ワークシートに書く。 ○以前の記述と見比べて自分自身の振り返りをする。	・戦争についての記述に深まりがあるかを評価する。(ファイル・ワークシート)

7 本時の授業

(1) 日時

2015年8月28日(金) 14:00～14:45

(2) 場所

勝沼小学校 6 学年教室

(3) 本時の活動

これまでに戦争について学んだ知識をもとに、戦争がいまだになくならないわけについて考える。

(4) 本時の目標

戦争についての自分の考えを深める。

(評価) 以前の戦争についてのワークシートの記述と今回のワークシートの記述を見比べて考えの深まりを評価する。

(4) 本時の展開

学習活動	教師の支援
<p>1 戦争中の人々の暮らしについて学習したことを思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争は、どんなことをもたらしましたか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・空襲の被害 ・甲府空襲, 大月空襲, 富士吉田空襲 ・B29 ・焼夷弾, 照明弾 ・出征, 戦死 ・勝沼でも430人被害 ・学童疎開 ・親子, 友達と離ればなれ ・軍事工場で働く ・食糧不足 ・人の弁当を盗む ・校庭で芋作り ・避難訓練 ・防空壕 ・英語禁止 など <p>2 世界で今なお起こっている戦争について知る。</p> <p>3 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争は、よいことはなく、つらいことばかりもたらすのに、どうして、戦争がなくなるのか。</div> <p>4 自分の考えをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地や資源がほしいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書はしない。 ・戦争はよいことはなく、つらいことばかりもたらした。というふうにまとめる。 ・世界の紛争地域を地図で示す。

<ul style="list-style-type: none"> ・聖戦だと信じてやっているから。 ・力を見せつけたいから。 ・武力をもってしないと悪いことを止めないから。 <p>5 意見を発表交流する。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>7 授業の感想をワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を板書する。 ・児童の発言に対して、「理由があれば戦争をしてもよいのか」、「戦争に正義はあるのか」等の問い返しをする。 ・友だちのよい考えはメモさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・板書を見て、キーワードでまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業感想を書く観点として、 ①「もう二度と戦争をしないためにはどうしたらよいか。」②「さらに調べたいこと」の2点について書くように伝える。
---	---

4 結果

- ・難しい課題だったけれど、子どもたちは、自分の問題としてよく考え発言した。
- ・戦争体験者に直接話を聞く体験や資料に直に触れる体験などの学習経験が児童の思考に生きていた。本質に迫るような意見が出ていた。
- ・長い取り組みを通じて、子どもたちは、しっかりと考えが持てた。
- ・子ども同士のやりとりの中でキーワードでまとめた。各自まとめを書くことで、さらに理解ができたのではないか。

5 考察

- ・授業感想や児童が関心を持って調べたこと、授業中の発言等をもとに、児童の実態をつかむように努めた。そこで得られた児童の見取りや、評価を今回の授業では、意識して生かすよう実践してみた。十分生かすことはできていないが、それぞれの子どもを見ていく視点が定まり、児童に対する支援のあり方を考える上でも助けになった。
- ・児童の記録を残していく作業は、地道で大変手間がかかる。生かそうとしなければ、ただの記録に終わってしまう。記録の残し方の工夫やそれを授業によりよく生かしていく方策について、今後もっと考えていく必要があると思う。

6 まとめ

ずいぶん長い期間の取り組みとなったが、果たして子どもたち一人一人にとって有意義な学びができていのだろうか、迷いながら学習を進めている。あくまでも児童の主体性を大切にしたいが、それが価値ある学びと結びつかないのでは、児童はさまよってしま

うと思うからである。そんな中、学習は、後半、さらに調べを深め（広め）、まとめていく方向はやめて、学習したことを劇で発表する方向へと進んでいる。児童は、生き生きと取り組んでいるが、上記のことに気を付けながら、児童の思いや実態を見極めながら、学習をすすめ、実り多いまとめとしたいと願っている。

◆本時の板書

The board features handwritten notes in Japanese, a world map, and vertical text on the right side. The notes are organized into several sections:

- Top Section:** **欲** (Desire) があって他の国の物が **自分たちだけよければよい** (If only it were good for ourselves). **ほしいから無理矢理奪おうとする** (We want it, so we'll just take it by force).
- Middle Section:** **土地や資源の奪い合い** (Struggle for land and resources). **他の国が攻撃とかしてきたら** (If other countries attack), **じゃまな国を倒せばじゃまがいなくなる** (If we overthrow troublesome countries, they'll disappear). **倒せばよい** (Overthrowing is good).
- Bottom Section:** **足りない物をとりに行く** (Go to get what's missing). **勝てば負けた国の土地や領地を拡大** (If we win, we expand territory). **勝てば負けた国の土地や技術を取ることができる** (If we win, we can take land and technology).
- Bottom Section:** **うらみ** (Grudge). **自分達が戦争で受けた苦みを他の国に与えたい** (We want to give the bitterness we suffered from war to other countries).
- Bottom Section:** **(まとめ)** (Summary). **お互いの国で不満やうらみけんかがある** (There are dissatisfaction, grudges, and fights in both countries). **武で解決しようとするから** (They try to solve it with force). **けんか不満うらみを武で押さえてやろうとするからそれが循環してなくなる** (Because they try to suppress dissatisfaction and grudges with force, the cycle won't continue).

On the right side of the board, there is vertical text: **8月28日(金)** (August 28th, Friday) and **日直悠五** (Nishida Yuigo). A small world map is also present on the board.

